

時論 まと

政令市移行への提言⑥

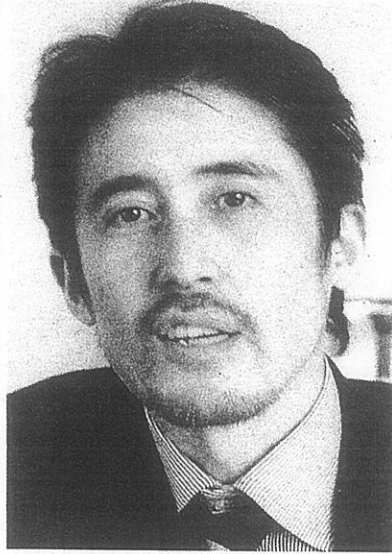
——まず、熊本の印象をうかがいたい。

「熊本は歴史があり、水資源、農林水産物などの豊かさを感じる。恵まれているから、個人資産も含めストックがしっかりしている。それゆえに、先人が(物心両面で)築き上げてきたものに頼りすぎているような感じがする」

——経済的な評価はどうだろう。

「アジアの国々に行くと、すごい勢いで経済成長している。経済はグローバル化しているが、そのアジアの

経済ターゲットはアジア



投資会社社長

森 大介さん 44

熊本市出身。日本長期信用銀行、シティバンクを経て2004年、起業・事業再生支援などを行う投資会社を福岡市で設立、社長を務める。社名「ドーガン・アドバイザーズ」は相手を思いやる意味の九州弁「どがんですか」に由来する。

理由は。

勢いを九州や熊本は吸収しきれいていない。時間が止まっていると言ってもいいでしょう。海外から見れば、九州の存在感は薄いし、熊本のことさらさら知られていない」

——そうした状況にある

「イノベーション(革新)が起こりにくい状態にあるのか、起業家が少ない感じがする。(自分は)福岡市に本社を置いているが、『ただ働きでいいから使って』という面白い大学生や、新

しいビジネスの相談に起業家が各地から来る。でも、熊本からはなかなか来ない。大きな将来像を描いて『熊本に本社をおいて事業をやりますよ』みたいな人とあまり出会えていない」

——打開策はあるか。

「小さくてもいいから、身近な所でビジネスの成功事例が多く生まれることだ。誰か一人でも成功した人が出れば、周囲に産業クラスター(集積)が生まれる。学生ら若い人たちが『地元においても(全国的に、あるいは世界的に)活躍できるんだ』『あんな集団になりたい』と思うようなクラスターをどんどんつくってほしい」

「熊本らしさをいかして発展してほしい。福岡や東京を意識する必要はない。アジアの中の熊本として、熊本にしかないものを強く見つけ、ともに訴えていきたい。福岡、熊本の張り合っていないんで、世界の誰も見ていない。もっと大きいところで、魅力をアピールすることが求められている」

「だが、景気の低迷が続く中では、『将来的に売り上げを維持できるか』『雇用を維持できるか』といった悩みが当然出てくる。その危機感を感じながらも、東京や海外とのネットワークを築こうと、前向きに取り組む若者もいる。突破口を開いてもらいたい」

——古里に何かメッセージを。